

ストリートから東京の今を伝える情報サイト



## JFA 「style-arena」 Report 2013-14 WINTER

[www.style-arena.jp](http://www.style-arena.jp)



# JFA 「style-arena」 Report 2013-14 WINTER

---

www.style-arena.jp

## 目次

(1) 地域別ファッションの特徴（原宿 渋谷 表参道 代官山 銀座）	-----	3
(2) 2013 WINTER Trend Rankings TOP1	-----	4
(3) 2013 WINTER Trend Rankings TOP2・3	-----	5
(4) 2013 WINTER Trend Rankings TOP4・5	-----	6
(5) 2013 WINTER Trend Rankings TOP6・7	-----	7
(6) 2013 WINTER Trend Rankings TOP8・9・10	-----	8
(7) 2013 WINTER Trend Rankings 圏外	-----	9

# 地域別ファッションの特徴

東京のストリートファッションを観察し、発信しているwebサイト「style arena.jp」。原宿、渋谷、表参道、代官山、銀座という、テイストが異なった5つのエリアのストリートスタイルを掲載し、リアルなファッションの動き、流れを伝えている。

現在は以前とは違い、地域別ファッションの特異性というものは薄まりつつある。それはどの地域に足を運んでも同じようなブランド物を購入できるようになったり、ファストファッションがここ数年で台頭してきて皆それに依存している点などが挙げられる。しかし、それでもまだ地域毎に根付いているファッションスタイルがあって“違い”を感じる事ができるのも事実。それをこのレポートで伝えていきたいと思う。

## 原宿 HARAJUKU

原宿は、世界的にも独特なスタイルで有名。ファッションバランスや感覚に優れた若者が多く、モード、カジュアル、トラッドなどを融合した、よい意味でセオリーを無視したスタイルを生み出している。

また、原宿は東京で一番古着屋が集まっている街。ほとんどの人が古着を取り入れたスタイルをして個性的なファッションが見られる。これからどんな新しいスタイルが生まれるのか、とても楽しみな街だ。



## 渋谷 SHIBUYA

流行の移り変わりが最も激しい街。流行のブランドに集中した結果、似たようなファッションスタイルをよく見る事が多い。それは109系ブランドにファストファッションブランドを組み合わせて着る人がほとんどだからだ。

“流行はあるが個性がない”のが渋谷。しかし常に新しい物を求め、敏感に探し、纏っているのが渋谷だ。この街を見れば、日本の女性の“今”が分かるのかもしれない



## 表参道 OMOTESANDO

ハイブランドの路面店が並ぶ表参道では、集う人々のスタイルは特に洗練されている。基本はモノトーンを基調にしたスマートでモードなファッションで、小物使いがうまいのも特徴。アクセサリ、時計や鞆など、コーディネートプラスαになる物を、スタイルのテイストや自分のキャラクターに合うように上手に取り入れている。無駄な物は付けず、コーディネートに足し引きの感覚が優れていると感じる。

高級な物もそうでない物も、等身大で飾らずにスタイリングできるセンスを持ったエリアだ。



## 代官山 DAIKANYAMA

代官山は、5地点の中でもファッションが地域に密着しているという特徴があるように感じる。雑貨屋や古着屋で買った、ノーブランドなどの「匿名性」の高い服や小物を身につけている人が多い。スタイルアンケートでも「親からもらった」などと答える人も多く、ファッションが親から子へと受け継がれていることが伺える。これが、クラシックで落ち着いた雰囲気を作り上げているのだろう。

また、人と同じファッションを嫌う人が多く、流行に流されにくい。特定のショップやブランドにも強い拘りを持たず様々なショップをまわって同じブランドが重ならない。原宿とは違う個性がある魅力ある街だ。



## 銀座 GINZA

銀座は、他の地点とは大きく異なり、全体的には年齢層が若干高めで、上品で落ち着いた雰囲気を持った人が多い。ラグジュアリーブランドのバッグや時計を身につけている人も多いが、それでも全身を高級品で固めている人は少ない。ファストファッションのブランドをMIXして決して嫌らしくならず、ラフさと高級さを同居したスタイルに仕上げている。

しかし、ファストファッションがここ数年に台頭してきた事で、銀座の特徴の一つでもある「セレブ感」ある人達が目立たなくなっている。



# 2013 WINTER Trend Rankings The Best 10

2013冬にも多くのトレンドアイテムが誕生した。こちらではストリートファッションの中で「スタイルアリーナ」独自のリサーチで印象に残ったトレンドをランキングにして作成。TOP3の各アイテム下にはトレンドの移り変わりをグラフで表したので、そちらも是非ご覧頂きたい。

1位

## チェスターコート

基本的にはノッチドカラー(刻みの入った襟)で、胸に箱ポケットと両脇にフラップ付きポケットを付け、ウエストを絞ったシルエットが特徴のコート。昨年にも男性中心にプチブームになったが、今年は更に動きが加速してブームになり、男女共に人気を博したアイテムとなった。

### 2014年冬も必須アイテムになること間違いなし

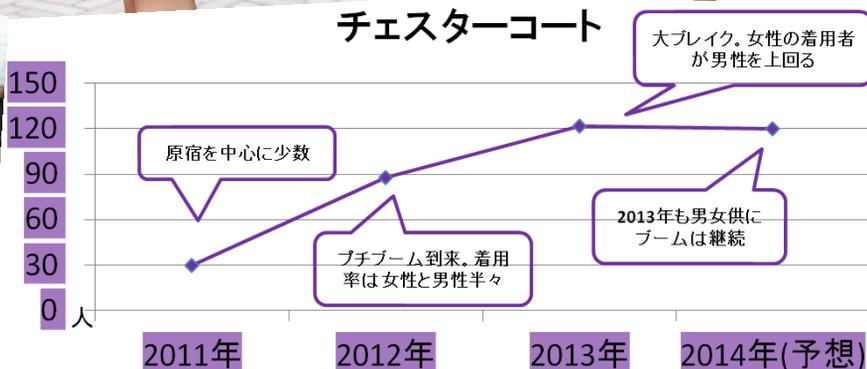
一部のメディアではチェスターコートは“2013年の冬だけ”との声があったが、そんな事はない。トレンチコート感覚で使えるベーシックなアイテムだから必ず定着する。2014年冬も問題なく使えるだろう。



### 冬のレディースアウター人気NO.1

このコートは、もともと男性ファッションのアイテムであり、女性では見かける事が少なかったが、2013冬は“マニッシュ”な着こなしが例年よりもトレンドとなったため、その流れから女性にもチェスターコートへ注目が集まるようになった。

### チェスターコート



※グラフの人数はスタイルアリーナの撮影で着用していた人数を調べて算出したもの

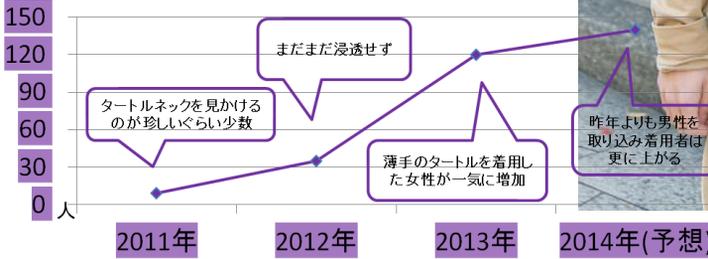
## 2位

### タートルネック

2013年からストリートファッションでトレンドとなった「タートルネック」。これまでもよりデイリークローズとして認知され、男女共に着用率が爆発的に上がった。



タートルネック



※グラフの人数はスタイルアリーナの撮影で着用していた人数を調べて算出したもの

今年の主流は厚手よりも、薄手で細身のカットソータイプ。様々なスタイルに着回しが利いて、レイヤードスタイルにも取り入れやすい。基本的に筒状の襟は折り返すのが一般的だが、ファッションistaの間では最近あえて折り返さない人もいる。自然にしわを寄せて“こなれ感”を出すのがポイント。

### ブーツィ

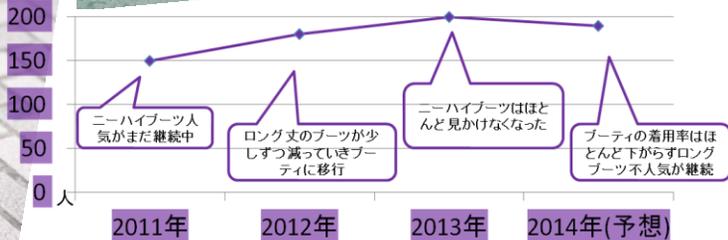
## 3位

ロングブーツに代わって2013年冬の主役に躍り出たレディーズシューズはショート丈のブーツで、中でも「ブーツィ」が大流行した。



ブーツィ

ロングブーツはコーディネート限定してしまい、使い勝手が悪いのがデメリット。近年は多様なファッションを求める傾向にあるため人気下がってきたのも頷ける。一方、ブーツィはボトムスを選ばない。したがって、ミニやロングのスカートでも、スキニーパンツでも合わせられる。ある程度の防寒をしつつ、靴1足で、様々なファッションを楽しむことができるのだ。



※グラフの人数はスタイルアリーナの撮影で着用していた人数を調べて算出したもの

5位

## ソックス見せ

真冬でも足元は完全に隠さずソックスを見せるのがファッションの間では常識。このトレンドは2~3年前からスタートし、現在では完全に定着した。しばらく“ソックス見せは当たり前!”の時代が続くだろう。

ソックスは「子供じみた」感じや「野暮ったさ」がにじみ出るところから「ダサイ」と認知されていた。が、ここ数年でその評価はガラッと変わった。その背景の一つとしては写真のようにソックスが似合う、レトロでスクールガール風の装いが注目されたこと。愛らしさや初々しさといったファッションが見直されたのが大きい。

また、近年爆発的にスニーカー人気が再燃し、ソックスと完璧にマッチングするスケーターファッションブームも手伝い、併せてトレンドになったとも言えるだろう。



特に白ソックスは様々なファッションスタイルの人から男女で人気。昔は“ダサイ”と言われ続けてきたこのソックスだが、現在はそんなダサさを若干匂わせることがオシャレとしての常識になった。



MA-1ジャケットがファッションアイテムとして最初にブームになったのは1980年代のバブル期で、流行のきっかけは映画「トップガン」からと言われている。



4位

## MA-1

チェスターコートと並び、冬アウターとしてブレイクした「MA-1」。色んな地域というより原宿、渋谷の女性を中心にトレンドとなったアイテム。



MA-1単体だとマンニッシュ、ボーイッシュに見えるが、実はワンピースやペンシルスカート、フレアスカートなどのガリーなアイテムと相性は抜群。写真のように上手にMIXしている原宿、渋谷女子を多く見掛けたが、それがMA-1を使用した主流のスタイル。MA-1は一見、コーディネート限定してしまいがちだが、実は色んなジャンルに取り入れやすく汎用性があるアイテム。

6位

## オーバーサイズコート

古着スタイルを好む女子の OUTER はオーバーサイズ気味が主流で、ゆったりとしたデザインのことをセレクトしている人が目立った。



メリットはアウターをジャストで着るよりも華奢に見えて着痩せ効果があること。更に小顔効果もあって、より女性らしく見えてしまうのだから不思議なマジックだ。

また、今季、ネオトレンドのチェスターコートも例外ではなく、ビッグシルエットでメンズライクな物が流行っていたのも印象的。

次の秋冬の原宿はどういうシルエットのアウターが流行するのか楽しみだが、ゆったりとした物が継続して流行るのが今のところ本命だろう。

## ネイビーコート

7位

秋から継続しているネオトレンドのカラー。秋はネイビーのスウェット、カットソー、スカートなどのアイテムが躍動したが、冬はネイビーコートが大車輪の活躍を果たした。中でも今回ランキング1位のチェスタータイプのコートが多く占めていたのは印象的だった。

今までは冬のコートと言えばブラックが主流で一番人気だったはず。しかし、ブラックより軽やかで知的かつ上品なネイビーコート特有の長所は、人々を惹きつけ、一気に主役に躍り出た。また、ネイビーは数々のベーシックカラーよりも日本人のもつ肌色と相性が良いというメリットがある。どんなカラーや服装にも合わせやすい、という要素もあり“失敗しないカラー”として次の冬も重宝されるだろう。



8位

## ハウンドトゥース・チェック(千鳥格子)

日本では「千鳥格子」と呼び、このベーシックな柄が2013A/Wコレクションや各メゾン、ショップで猛プッシュしてストリートファッションでもよく見かけた。

日本発祥と思っている人も中にはいるだろうが、実はスコットランドが発祥の地で英国の伝統的な柄でもある。ちなみにハウンドトゥースとは「犬の牙の形」という意味。犬の牙のような紋様が連なってチェックを構成している事からそう呼び名がついた。

2013年は「クラシカル」がファッションのキーワードだったがその雰囲気加速させるハウンドトゥースは絶好の柄ともいえ大人気だった。



9位

## ヘアバンド・ターバン

2013秋冬は、髪長さ、年代、地域に関係なく、多くの女性がヘアバンド(ターバン)を着用していた。印象的だったのは総じて、幅が広いヘアバンドをセレクトしていたところ。コーディネートの主役とまではいかないが、ワイドな分、スタイリングのポイントとなって、十分な役割を果たしている。

ワイドなヘアバンドを選ぶことによって、髪長さに関わらず、すっきりとしたヘアスタイルをキープできるのもポジティブな要素。また、いつものスタイリングに投入するだけで、グッとこなれたイメージになり、ニット帽やキャップとは一味違った新鮮な着こなしを演出できる。まだ男性では絶対数としては少ないが、女性からの影響でこれから着用率が上がっていく予感がする。



10位

## ガウンコート

このアイテムは主に原宿でトレンドとなり、古着を愛するファッションistaが好んで着用していた。ガウンということで基本的にはボタンは付いておらず、丈が長めの羽織るだけのタイプや、ベルトを前で結ぶタイプなど細かいディテールは様々。柄はチェックが一番人気で、より派手なスタイルで原宿を席巻していた。

また、オーバーサイズのガウンをセレクトし、プチトレンドであるコートonコートでレイヤードを巧みに表現した人がいたのも印象的だった。ガウンの下にスタジャンだったり、逆に写真一番左の方のようにチェスターコートの下に合わせている達人もいた。原宿のレイヤードの妙というものは5地点の中でも特に際立ち、癖がある物でも簡単に着こなししてしまう創造性に改めて凄みを感じる。



## ランク圏外でも注目されたトレンドアイテム3連発

## スタジャン

70～80年代にトレンドとなったスタジャンは、ゆったりサイズでフロントに刺繍やワッペンが付き、カジュアル感が強いものが多かった。現在は全体がスリムなシルエットで、着丈も短く、ワッペンは付いてないものが主流。

これだったらスラックスなどのキレイめスタイルにもマッチリ。勿論、本来はカジュアルアイテムなのでデニムやスウェットパンツでも相性抜群。キメたスタイルでも、気を抜いたスタイルでもハマる“手軽さ”がスタジャンが人気を集めた理由の1つ。



## モスグリーン

ネイビーブルーがストリートファッションで大ブームを巻き起こし、圧倒的な存在感を發揮。しかし、ネイビーの独走状態に待ったをかけたのが2013年冬に急浮上した、「モスグリーン」。



モスグリーンのモス(moss)というのは、英訳で苔(コケ)を意味していて、くすみのある深緑のこと。「苔」と聞くと良いイメージを持たないかもしれないが、自然色であるグリーンは、どの色とも相性がよく、馴染みやすい色。暖色系に合わせるとクラシカルな雰囲気を出せる効果がある。

## ノーカラーコート

襟がなく、首回りがすっきりとしたデザインが特徴的なノーカラーコート。今回、第2位にランクインしているタートルネックなどのレイヤードコーデにもマッチシとはまるため、併せて人気が出たようだ。また、物にもよるが襟がない分、コートonコートも可能で、チェスターコートよりも汎用性が高い。組み合わせ次第でカジュアルにもドレスシーにも着こなせる分、選択肢は広くコーディネートのがいいがあるアイテム。



ノーカラーは5地域の中で言うと、銀座が一番よく見つけたコート。首回りのシルエットがキレイで上品かつフェミニンな印象であるこのコートは、同じく上品な銀座の女性とベストマッチングする。ボリュームのあるマフラーやスカーフで首元を飾り、エレガントな着こなしをしている人も目立った。

■■■■ JFA 「style-arena」 Report 2013-14 WINTER

■■■■ 2014年5月発行

■■■■ 解説 企画事業部 情報発信事業  
ディレクター 嶋田 有樹

■■■■ 発行 一般財団法人日本ファッション協会  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-5-1 神保町須賀ビル7F  
Tel 03-3295-1311 Fax 03-3295-3295 Mail info@japanfashion.or.jp